



毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です  
～子どもの読書活動を推進しましょう～

## 図書館活動のスタートは？

5月末になり、学校図書館では、全学級でオリエンテーションを行い、気持ちも新たに図書館を開館されていることと思います。

オリエンテーションでは、図書館の利用の約束を確認するとともに、図書館を効果的に活用できるようにするための指導を学年の発達段階に応じて国語学習と合わせて行うと効果的です。図書館には、学校司書の先生もいますので、専門的なことを話してもらったり、おすすめの本を紹介してもらったりするのも良いのではないのでしょうか。

低学年では、1年生国語「としょかんへいこう」2年生国語「図書かんたんけん」の学習で、みんなの本であることや、本の分け方、本のならべかたを学び、図書館となかよくなってほしいと思います。

中学年では、3年国語「図書館たんていだん」4年国語「図書館の達人になろう」の学習で、本の分類についてや図書館の工夫について学び、自分で調べる楽しさを身に付けてほしいと思います。

さらに高学年では、5年国語「図書館を使いこなそう」で、日本十進分類法について学び、本選びのはばが広がることを学び、6年国語「地域の施設を活用しよう」では、公共図書館をはじめとした、地域の施設の利用についても学び、知りたい情報は学校図書館以外でも知る施設がたくさんあることから、学びのはばを広げていってほしいと思います。

上記のようなオリエンテーションでは、楽しく図書館について学びますが、それがすぐに定着するわけではありません。学習活動や読書活動の中で活用してこそ知識は確かなものになります。子どもたちが学んだことを自分で確認しながら本を探せるような図書館環境を整え、図書館活動のスタートをきりましょう。

## 安心して学校図書館を使うために

### ○昨年度各学校で行われていた新型コロナウイルス感染予防対策

- ・入館前に手洗い、または、手指のアルコール消毒を行う。
- ・図書館を開館している間は窓を開けて換気を行う。
- ・受付カウンターに飛沫予防感染予防のためのビニールシートやアクリル板を置く。
- ・机・椅子は間隔を空けて使用する。
- ・貸出期間を長くし、貸し出し冊数を増やすことで、図書館の利用頻度を下げる。
- ・返却された図書は一定期間置いてから書架に並べる（ウイルスの消滅を待つ）。
- ・図書館の本を学級文庫に配布し、学級文庫の充実を図る。

なかなか手強いコロナウイルスです。

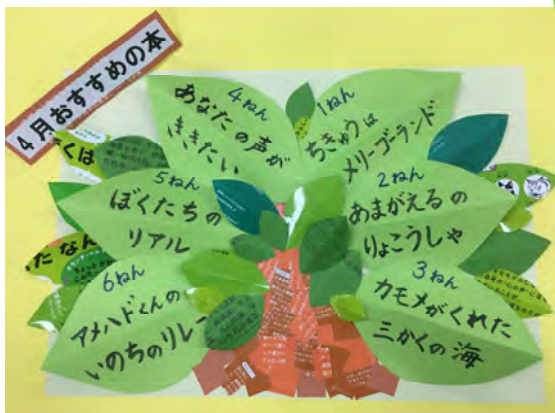
学校図書館には、学習センター・情報センター・読書センターという三つの機能がありますが、これらの機能を止めることなく、安心して子どもたちに学校図書館を使ってほしいと願っています。



総合図書館団体貸出受付でも手を消毒します。

## 本の帯を使った5月の掲示・展示

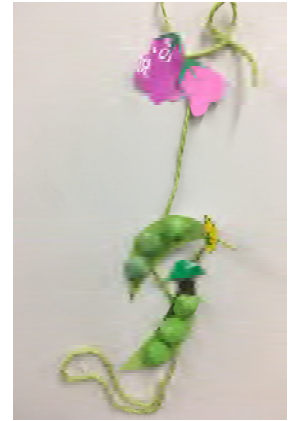
図書館は楽しみながら学ぶところです。  
そんなことを感じる手助けになるよう、明るい帯色を使って、  
図書館を彩ってみましょう。  
わくわくどきどき、そしてなるほど感じてほしいですね。



図書館の入口に子どもたちに  
「としょかんとなかよし」  
「としょかんともだちになろう」  
と呼びかけるプレートを作って、掲  
示してみましょう！

トイレットペーパーやサランラッ  
プ等の芯に、こしのある帯の紙を使  
うと立体的な作品が作れます。





緑色の帯にエンドウ豆はティッシュペーパーを丸めて、絵の具で色を付け、のり付けをします。

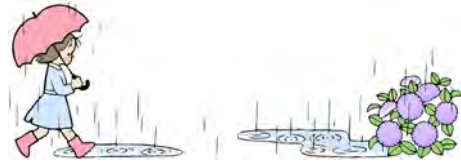
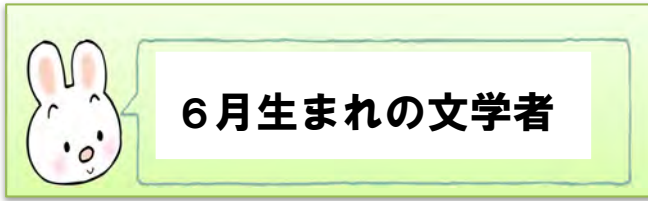
おいしそうなエンドウ豆をたくさん作ってみましょう。

豆の本も集めると楽しそうです。



雨の日は図書館を利用する子どもたちが増えます。自分の読みたい本をなかなか探せない子たちもいます。読書の幅を広げる意味でも、「こんな本は？」と、紹介するコーナーを作りましょう！





斎藤 惇夫（さいとう あつお）と「グリックの冒険」

1940年6月20日 新潟県新潟市生まれ

斎藤氏は、1970年、27歳の時に、2か月ほどで「グリックの冒険」（日本児童文学者協会新人賞を受賞）を書き上げ、作家デビューをしました。この話を書こうと思ったのは、家で育てていたシマリスが逃げ出したこと、そして、自分をはぐくみ育ててくれた北国の自然や体験を通して知りえた人生の起伏、会うことができた大切な人や物の中を作品に登場するシマリスのグリックと一緒に、もう一度歩いてみようと思ったことなどからでした。

斎藤氏は、編集の仕事も続けていたので、翌日の仕事に差し支えないようにするために、「ガンバ」シリーズの執筆は、毎日夜の23時から1時までの2時間、書く枚数を6枚と決めて書いていました。作品の数はあまり多くなく、1972年「冒険者たち ガンバと15ひきの仲間」、1983年「ガンバとカワウソの冒険」などあります。「冒険者たち」はロングセラーとなり、「ガンバの冒険」の名前でアニメ化されたり、劇団により繰り返し上演されたりしました。

有川 浩（ありかわ ひろ）と「図書館戦争」

1972年6月9日 高知県高知市生まれ

有川氏は、将来作家になろうという夢があり、学生の中から作品を書いていましたが、新人賞など受賞できず就職しました。その後、結婚して時間ができて書いた「塩の街」で、「電撃ゲーム小説大賞」を受賞し、作家デビューをしました。

有川氏の夫が「図書館の自由に関する宣言」※を見て、有川氏にこの宣言を伝えたことが、「図書館戦争」を生むきっかけになり、その後、映画化されました。図書館戦争シリーズとして、「図書館革命」「図書館内乱」など6作あります。

有川氏は、作家デビューして3作続けて、自衛隊と未知の物体・生物との接触をテーマにした作品を発表しており、陸上自衛隊の「塩の街」、航空自衛隊の「空の中」、海上自衛隊・海上保安庁・機動隊の「海の底」の3作を合わせて自衛隊三部作と言われています。ほかにも「フリーター家を買う」「阪急電車」「三匹のおっさん」など、映画化されたりテレビドラマ化されたりした作品があります。

※日本図書館協会の宣言で、「図書館は資料収集の自由を有する。」など掲げています。

【あとがき】子どもたちの生活環境の変化、さらには幼児期からの読書習慣の未形成により、子どもたちの読書離れが叫ばれています。一方、コロナ禍で読書の楽しみを見つけたり、再発見したりしたというニュースも聞かれます。

「読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものです。」（文科省 HP より）

このような時だからこそ、子どもたちの読書活動推進のために何ができるか、共に考えていきましょう。

（足立）



今月は、おへそがついたかえるが大活躍する、絵巻物風の絵本三部作をご紹介します。

『おへそがえる・ごん1 ぼんこつやまのぼんたとこんたの巻』

『おへそがえる・ごん2 おにのさんぞくやっつけろの巻』

『おへそがえる・ごん3 こしぬけとのさまの巻』

赤羽末吉／さく・え 福音館書店 2020年（1986年刊の再刊） 各¥1400（税別）

<お勧め年齢>

乳幼児★★★ 小低学年★★★ 小中学年★★☆ 小高学年★★☆ 中学生★★☆

高校★★☆ 一般★★☆ （★が多い年齢の子どもにお勧めです）

<本の紹介>

蛙なのにおへそがあり、おへそを押すと口から雲がでてくる主人公の“ごん”は、旅の途中で出会った青年“けん”のお父さんを、一緒に探しに出かけます。途中で仲間になった、手がはえた蛇の“どん”たちと、奇想天外な方法で鬼の山賊などをやっつけていく、楽しい作品です。

著者が“「俺は現代の鳥獣戯画を書くんだ」と家族に宣言し”（※）ていたというエピソードのとおり、シンプルな図案や、ユーモラスで生き生きとしたキャラクターが、横長の装丁と相まって、絵巻物を見ている気分になります。

※：『絵本画家 赤羽末吉』 赤羽茂乃/著 福音館書店(2020年) p491より

<子どもに手渡す時のポイント>

大人も楽しめるので、是非、子どもと一緒に読んでみて下さい。

各巻100ページ超ながら、ひらがなのみで1場面あたりの文章が少なく、絵だけを眺めても楽しめるので、幼児からでも一人で楽しめます。

著者は国際アンデルセン賞画家賞を受賞し、本作は、ライプチヒ図書デザイン展「世界で最も美しい本コンクール」銅賞に輝くなど、日本のみならず、国際的に高く評価されています。

このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみて下さい。



発行：福岡市教育委員会 総合図書館 図書サービス課

電話：092-852-0639

FAX：092-852-0801